

第三十六條 特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス
抵當權ノ登記ヲ移ストキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十八條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ

於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セサルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條 船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス

第四十條 船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條 第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三類 船舶登記規則

第四十二條 特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱並ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還附スルコトヲ要ス

第四十四條 第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十五條 特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 登記官吏カ賃借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動産登記法第二百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第三百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

第四十八條 此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三類 船舶登記規則

第四十九條 不動産登記法第六十二條ノ規定ハ明治十年第二十八號布告ニ從

ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條 不動産登記法第六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶

ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表

示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非スシテ此規則施行前ニ登記セ

サリシ船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リテ其積量ノ測度ヲ受クルマテ

ハ舊法ノ規定ニ依リテノミ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ登記ニ付テハ舊登

記用紙ニ丁區事項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之

ヲ準用ス

第五十二條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登

記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹

消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタ

ル質入又ハ書入ノ登記アル場合ニ限り此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登

記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿

ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

●船舶登記取扱手續

(明治三十二年六月十五日
司法省令第三十五號)

船舶登記取扱手續左ノ通相定ム

船舶登記取扱手續

第一條 船舶登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘ

第三類 船舶登記取扱手續

第二條 船舶共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製ス

ハシ

第三條 船舶特別登記簿ハ附錄第一號雛形ニ準シ船舶特別共同人名簿ハ附錄第

二號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 船舶登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 船舶登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ

置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶

ノ名稱、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘ

シ

第六條 受附帳ハ附錄第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第七條 登記證書ハ附錄第五號雛形ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

第八條 船舶所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長（市、區、町村長

ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員）ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル

登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ亦不動産ノ登記ニ關シ其登記
所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此限ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ
證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人ノ登記ニ關
シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト船籍港ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限
ニ在ラス

第九條 印鑑ハ附錄第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 第八條ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セス

第十一條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ
備フ

一 謄本抄本交付帳

二 登記證書交付帳

三 申請書囑託書通知書附屬書類送込帳（三十五年司法省令第十五號ヲ以テ
第三類 船舶登記取扱手續

- 本號改正)
- 四 受領證原符元帳
 - 五 各種通知簿
 - 六 登記立會調書綴込帳
 - 七 決定原本綴込帳
 - 八 登記簿謄本綴込帳
 - 九 船舶異動通知書綴込帳
 - 十 船舶登記濟通知簿
 - 十一 抗告書類綴込帳
 - 十二 本登記濟證交付帳
 - 十三 印鑑簿
 - 十四 印鑑證明書綴込帳(同上ヲ以テ追加)
 - 十五 還納受領證綴込帳(同上)

第十一條ノ二 前條第一號乃至第十二號、第十四號及ヒ第十五號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ(同上)

第十二條 登記簿謄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

- 一 船舶ノ種類及ヒ名稱
- 二 船籍港
- 三 手数料ノ金額
- 四 登記所ノ表示
- 五 年月日

第十三條 登記簿謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三類 船舶登記取扱手續

第十四條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ美濃罫紙ヲ用ユヘシ

第十四條ノ二 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ(同上ヲ以テ本條追加)

受附帳、登記立會調書綴込帳、登記簿謄本綴込帳及ヒ船舶異動通知書綴込帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原本綴込帳、抗告書類綴込帳及ヒ印鑑證明書綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

謄本抄本交付帳、登記證書交付帳、受領證原符元帳、各種通知簿、船舶登記濟通知簿、本登記濟證交付帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

シ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録税額ヲ記載スヘシ但登録税法第三條第一項第一號乃至第十號ノ登記ニ付テハ課税標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

第十六條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登録税法第三條第一項第七號乃至第十號、第十四號但書及ヒ第十五號但書ノ規定ニ依リ登録税ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録税ノ全額ヲ納付スヘシ(二十六年司法省令第二十六號ヲ以テ本項改正)

前項ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登録税ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

第三類 船舶登記取扱手續

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第十七條 船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十八條 登記證書ヲ交付スルトキハ登記證書交付帳ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱竝ニ船籍港、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ登記證書ト契印スヘシ

第十九條 船舶登記規則第三條第一項ノ通知ニハ船舶ノ種類、名稱、積量、船籍港、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

第二十條 船舶登記規則第三條第二項ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ受ケタル通知書ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ見出帳中相當欄ニ其通知書ヲ編綴セル船舶異動

通知書綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記入スヘシ

第二十一條 管海官廳ヨリ異動ノ通知ヲ受ケタル船舶ニ付キ其異動ニ關シ變更登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中其異動ニ關シ船舶異動通知書ノ冊數、丁數欄ニ爲シタル記入ヲ抹スヘシ

第二十二條 登記番號ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第二十三條 船舶登記規則第五十一條第一項但書ノ規定ニ依リ舊登記簿用紙ニ丁區事項欄ヲ追加スル場合ニ於テハ舊登記用紙中丙區ノ左側ニ附録第一號雜形中丁區事項欄ノ部分ト同一ノ用紙ヲ貼附シ登記官吏契印スヘシ

第二十四條 不動産登記法施行細則第二條第二項、第三項、第四條、第五條、第十條、第十二條、第十三條、第十五條、第十七條、第十八條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第二十九條、第三十三條、第三十四條、第三十六條、第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十五條乃至第四十七條、第

第三類 船舶登記取扱手續

四十九條、第五十一條乃至第六十條、第六十四條乃至第六十七條、第六十九條乃至第七十六條及ヒ商業登記取扱手續第十三條、第四十六條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

(附録略ス)

●船舶登記簿ノ謄本抄本請求等ノ手数料

(明治三十二年六月十五日 司法省令第三十七號)

船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手数料左ノ通相定ム

第一條 船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ但一枚ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條 船舶登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覧ヲ請求スル者ハ手数料金拾錢ヲ納ムヘシ

第三條 船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ請求スル者

ハ手数料金五拾錢ヲ納ムヘシ

第四條 特別登記簿ニ船舶ニ關スル登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件

手数料金拾錢ヲ納ムヘシ

第五條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 第一條乃至第四條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ

以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第七條 本令ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船舶港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カル場合ニ

於ケル船舶登記事務取扱所

(明治三十二年七月五日 司法省令第三十九號)

船舶港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其船舶登記ノ事務ハ商業登記ニ付委任シタル登記所ニ於テ之ヲ取扱フ

第三類

船舶登記簿ノ謄本抄本請求等ノ手数料
船舶港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨ル場合ニ於ケル船舶登記事務取扱所

●船舶検査法

(明治二十九年四月六日
法律第六十七號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船舶検査法

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ(三十三年法律第五十三號ヲ以テ改正)

一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主シテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟

三 倉庫船、繫留船

四 平水航路ノミヲ航行スル帆船

第二條 (同上ヲ以テ削除)

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得(同上ヲ以テ本項追加)

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ(三十三年法律第五十三號ヲ以テ全條改正)

遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラス特ニ検査官吏ヲ指定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交

第三類 船舶検査法

付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得

第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十三年法律第五十三號ヲ以テ全條改正)

詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ

船舶検査證書若ハ假證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス(同上ヲ以テ條中改正)

前條第二項ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス
第十二條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨ

第三類 船舶検査法

リ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數二百石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得(三十五年法律第五十三號ヲ以テ條中改正)

第十七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ執行ス(同上ヲ以テ改正)

一 日本臣民ニ於テ借入レ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶

二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミテ航行スル外國船舶

三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶

第十八條 地方長官ハ第一條各號ニ掲ケタル船舶ノ検査ニ關シ遞信大臣ノ認可

ヲ受ケ必要ナル規程ヲ設クルコトヲ得(同上ヲ以テ追加)

(參照)

船舶検査法施行細則(明治三十三年十二月二十八日遞信省令第八十七號)

●航海獎勵法

(明治二十九年三月二十三日法律第十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航海獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航海獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミテ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登録シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物、旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ
第三類 航海獎勵法
百八十五

一時間十海里以上ノ最強速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル
鐵製又ハ鋼製汽船ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メテ遞信
大臣ノ認許ヲ受ケヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登録ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國
製造ノ船舶

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第三 帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最強速力ヲ有スル船
舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ
増ス毎ニ其百分ノ十、最強速力一時間一海里ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ二十ヲ増
給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最強速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對

シテハ總噸數六千噸又ハ最強速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ

支給ス

航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年
ヲ經過シタル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

明治三十二年十月一日以後帝國船籍ニ登録スル外國製造ノ船舶ニハ前二項ノ
規定ニ依リ支給スルキ航海獎勵金ノ半額ヲ支給ス(三十二年法律第九十六號

ヲ以テ本項追加)

第六條 航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス

帝國各港ハ寄港シ外國ハ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外
國ヨリ發航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其

ノ航海里數ヲ算定ス

航海里數ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第三類 航海獎勵法

第七條 遞信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乘組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千五百噸未滿

二人

總噸數二千五百噸以上四千噸未滿

三人

總噸數四千噸以上

四人

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス但シ

外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス
第十四條 此ノ法律ニ依リ遞信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十八箇年間之ヲ施行ス(三十二年法律第九十六號ヲ以テ本條中追加)

(參照)

航海獎勵法施行細則(明治二十九年九月五日遞信省令第十五號)

●造船獎勵法

(明治二十九年三月二十三日法律第十十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル造船獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミチ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ遞信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸第三類 造船獎勵法

數七百噸以上ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條 造船獎勵金ヲ受ケヘキ船舶ノ船體及機關ニハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

第五條 詐偽ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第七條 前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス
(參照)

造船獎勵法施行細則(明治二十九年九月五日遞信省令第十六號)

● 船員

● 船員法 (明治三十二年三月七日 法律第四十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船員法

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミナ航行スル船舶

第三類 船員法

又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

一 氏名

二 本籍地

三 身分

四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第三類 船員法

第八條 第三條第二項及七第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滯ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

トヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滯ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ

船員カ日本ニ到着シタル後遲滯ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコト

ヲ要ス

第十一條 第三條第二項及七第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管

海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還

スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ

必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ

掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險

ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入

港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若

シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌

ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セ

ス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者

第三類 船員法

ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 - 三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ
 - 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
 - 五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ
- 船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危険アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル第三類 船員法

所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ従事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三類 船員法

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ争アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滯ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品

行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラズ

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
- 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

第三類 船員法

- 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
 - 四 海員カ喧争シタルトキ
 - 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ
 - 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
 - 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
 - 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
 - 九 海員タ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
 - 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
 - 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
- 第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス
- 一 監禁
 - 二 上陸禁止

三 加役
四 減給

- 第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス
- 上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス
- 加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス
- 減給ハ給料月額十分ノ一トス
- 第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス
- 第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス
- 第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得
- 第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキ
- 第三類 船員法

ハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰則

第四十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐偽ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又

ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 虛偽ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ

三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記

第三類 船員法

載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
四 船長カ第十七條第二項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルト

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ

第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重

禁錮ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手

段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓

以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一月以上一年以下

ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其

船舶ヲ去リタルトキハ十一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ

必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一月以

上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルト

キハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六

月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出テ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脫船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥

其他ノ危険物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス
第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例

ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脱船シタルトキハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ二等ヲ加フ

第三類 船員法

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

トヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

(參照)

船員法施行細則(明治三十二年六月十二日遞信省令第二十五號)

第三類 船員法

●船舶職員法 (明治二十九年四月六日 法律第六十八號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶職員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ

船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此ノ限

ニ在ラス(三十八年法律第六十九號ヲ以テ本項改正)

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ

謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得(同上

ヲ以テ本項追加)

第四條 各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表

第三類 船舶職員法

ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得(同上)

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス(同上ヲ以テ條中改正)

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ試験規定ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用井スシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス(同上)

- 一 公權ヲ剥奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得(同上ヲ以テ本條改正)

- 一 外國各港間ノミチ航行スル船舶
- 二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
- 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃借ノ場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員ト爲リタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三類 船舶職員法

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス
前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ賃借人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上ヲ以テ本項改正)

第九條ノ二 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ船舶検査法第十七條ニ掲ケル外國船舶ニ準用スルコトヲ得(同上ヲ以テ追加)

附則

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十

五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り試験ヲ用井スシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ

第三類 船舶職員法

乗組マシメサルコトヲ得

(表略ス)

(參照)

船舶職員法施行細則 (明治三十八年三月二十五日遞信省令第二十號)

●海員懲戒法

(明治二十九年四月六日) 法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海員懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員懲戒法

第一章 總則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ

之ヲ沈没セシメタルトキ

- 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
- 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 免狀行使ノ禁止
- 二 免狀行使ノ停止
- 三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第三類 海員懲戒法

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法

ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所

ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ

管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判

所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判

所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

第三類 海員懲戒法

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ

何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ依リ審判

權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二 二以上ノ地方海員海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲

シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於

テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ

其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シ

タルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ

集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始ス

ヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘ

シ開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ

審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコト

ヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

等三類 海員懲戒法

受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサル下キハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨グル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三類 海員懲戒法

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出テ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決

ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ

控告スルコトヲ得

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス

闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第三類 海員懲戒法

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第三類 海員懲戒法

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船船長運轉手機關手兎狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

●水先

●水先法

(明治三十二年三月十三日法律第六十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水先法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水先法

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條 水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス

一 帝國臣民ナルコト

二 主務大臣ノ定ムル試驗規定ニ依リ試驗ニ合格シタルコト

三 水先人名簿ニ登錄セラレタルコト

第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

一 滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者

二 剝奪公權者

三 家資分散者及破産者

四 瘋癲白痴者及身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者

五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ

二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第三類 水先法

第五條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帯スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ

第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最も近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條 二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス

等三類 水先法

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條 水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 水先人ハ水先修業生一名ニ限り水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條 水先區、水先旗ノ様式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設

ケシメ又ハ水先船ノ免狀及儀裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 水先人其ノ業務ニ従事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ

海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一 過夫、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメ

タルトキ

二 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ

事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條 前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄ス

ル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前

項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法

ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ

人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上

六百圓以下ノ罰金ニ處ス

等三類 水先法

三百三十九

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二 第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水

先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメ又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區

外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第三十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 水先人ヲ要招ハル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ヲ誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

三 水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四 第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艤裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

五 水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ヲ誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

等三類 水先法

六 水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ機裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者
第二十五條 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス
第二十七條 此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附則

第二十八條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（此期日ハ三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ同年八月四日ト定メラル）

第二十九條 明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第三十條 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス
前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限り之ヲ代用スルコトヲ得
舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セ

第三十一條 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スベシ
第三十二條 第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス
一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シ

第三類 水先法

タル下キ

二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ
 第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘
 ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得
 前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコ
 トナシ

(參照)

水先法施行細則(明治三十二年七月二十九日遞信省令第三十三號)

●郵便

●郵便法

(明治三十三年三月十二日
法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ニ公布セシム

郵便法

第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲ス

コトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ

運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ハ道路ニ障礙ア

リテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地畑其ノ他ノ場所ヲ通行ス

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ

爲スヘシ

第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等事故ニ遭遇シ

タル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル

者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力

第三類 郵便法

者ハ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス。職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條 郵便專用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受ケルコトナシ郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セズ

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限り其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検査ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検査ヲ受ケ

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ

爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ヲ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサル

モノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀

第三類 郵便法

損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但賣却ニ要スル經費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルニトナ得

有價物、賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ差出人ニ其開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ハ種類及料金ハ左ノ如シ

第一種 書狀 重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 三 錢

第二種 郵便葉書 一 通常葉書 金 三 錢
二 往復葉書 金 三 錢
三 封緘葉書 金 三 錢

第三種 毎月一回以上刊行スル定期刊行物

一 一號一箇重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金 五 厘
二 二號又ハ三箇以上一束重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金 一 錢

第四種 書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖、商品、見本及雛形、博物學上ノ標本

重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 二 錢

第五種 農産物種子

重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 一 錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ 第三類 郵便法 二百四十九

第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合装スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ヲ定ムル所ニ依ル

第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス 差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外之ヲ還付セス

第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額ニ倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス

第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス

第三類 郵便法

第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚斑毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限リ其ノ損害ヲ賠償ス

一 書留郵便物ヲ亡失シタルトキ

二 小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ

賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條 第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ

在ラス

一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二 不可抗力ニ因リタルトキ

三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第三十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキ

ハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後公異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人

之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵

便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月

二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其

第三類 郵便法

通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキ
 ハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ
 受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ
 交付ヲ請求スルコトヲ得
 第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以
 上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 前項ノ場合ニ於テ收得シタル金錢物品之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタル
 者ハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス其人ハ其ノ賠償金ニ對シテ責任を負フ
 第四十三條 第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事
 由ナクテ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事
 由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミ

タル者ハ科料ニ處ス
 第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上二年
 以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
 本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ
 第四十五條 第二十條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處
 シ其ノ物件ヲ沒收ス
 第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金を免レ又ハ免レムトシタル者
 ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
 第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料
 金ヲ表彰スヘキ證票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年
 第三類 郵便法
 二百五十五

以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料

金ヲ表彰スヘキ證券ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用シタル

郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證券ヲ剝脱切取シタルトキハ三圓以上

三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ

罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタ

ルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シニ等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、

隱匿者ハ抛棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取

リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絕シ若ハ其ノ送達ヲ遅延セ

シメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便專用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壊損傷シタ

ル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未

タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附 則

第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵

便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

第三類 郵便法

第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法
ヲ適用ス

●郵便規則 (明治三十三年九月一日)
(遞信省令第四十二號)

郵便規則左ノ通相定ム

郵便規則

第一章 郵便物ノ種別

第一節 總則

第二節 通常郵便物

第三節 小包郵便物

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第二節 別配達

第三節 留置

第四節 配達證明

第五節 書留

第六節 價格表記

第七節 代金引換

第八節 現金取立

第九節 約束郵便

第十節 郵便私書函

第三章 郵便物ノ差出

第四章 郵便物ノ配達

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第六章 損害賠償及報酬

郵便規則

第一章 郵便物ノ種別

第三類 郵便規則

第一節 總則

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

- 一 公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖、畫其ノ他ノ物件
- 二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條 通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其ノ重量ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル

郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徴收ス

第五條 無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲ケル區別ニ從ヒ其關係事務ノ名稱ヲ表面ニ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官職氏名私人ナルトキハ其宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ
前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徴收ス
無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添附シタルモノ亦同シ

第七條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徴收セス

第三類 郵便規則

第八條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依

リ郵便切手ヲ以テ之ヲ選付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徴收シタル郵便料過徴額及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ
爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受
取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四 名宛變更又ハ取戻ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其
ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル請求手数料金（三十六年遞信省令第六十
號ヲ以テ追加）

五 亡失又ハ失効ニ依リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留郵便物、小包郵便物、
價格表記郵便物、現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金（同上ヲ以テ本號中
改正）

第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘ
シ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス

第十條 第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限り
之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

一 差出人及受取人ノ住所氏名

二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標等

三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語

四 贈呈、納本等ノ慣用語

五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金滿了等ノ慣用語

六 送達上必要ナル注意ヲ示ス語辭

前項郵便物ニハ其内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ
記載シテ添附スルコトヲ得

一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量

第三類 郵便規則

二 定期刊行物、書籍、印刷物、書、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類

三 圖、畫及寫真ニ説明又ハ著色

四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲メ必要ノ事項

五 農産物種子ニ播種ノ時期及説明

前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル郵便物ハ第三種乃至第五種郵便物ノ場合ニ在リテハ第一種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用井タル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス

第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應シ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 通常郵便物

第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ

第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記載スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ住所氏名、身分、職業及商標等
- 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語

郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若ハ受領書ト爲サムカ爲メ收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之ヲ除去ス

第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼附

第三類 郵便規則

スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス其ノ未納又ハ不足ノ場合ニ於テハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス（三十六年遞信省令第六十號ヲ以テ改正）

第十八條 別ニ定ムル規定ニ依リ調製シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做シ之ト同額ノ料金を徵收ス（同上）

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行期日、回數、逐號番號、發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ限り附録トシテ之ヲ其ノ本紙ニ添附スルコトヲ得

トヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セサルモノニ限り之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十四條 印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限り綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十五條 業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セサルモノヲ云フ

第二十六條 寫眞、書、畫、圖及博物學上ノ標本ハ掛軸、扁額トナス等裝飾又ハ作爲ヲ加ヘサルモノヲ云フ

第三類 郵便規則

第二十七條 商品見本及雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其ノ營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節 小包郵便物

第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ(三十五年遞信省令第五十八號ヲ以テ本條改正)

一内地小包郵便料	金 五 錢
同一郵便區内	二百匁マテ 四百匁マテ 六百匁マテ
同一郵便區外	九百匁マテ 一貫二百匁マテ 一貫五百匁マテ
一内地臺灣間小包郵便料	九百匁マテ 一貫二百匁マテ 一貫五百匁マテ

二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ
三十錢	三十五錢	四十錢
九百匁マテ	一貫二百匁マテ	一貫五百匁マテ
五十錢	六十錢	七十錢

第二十九條 小包郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付シ該郵便物ノ配達又ハ還付ノ際受取人又ハ差出人ヨリ該郵便物ノ受領證ヲ差出サシム

第三十條 小包郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外へ轉送スルトキハ更ニ郵便料ヲ徵收ス(三十五年遞信省令第五十八號ヲ以テ本條改正)

第三十一條 小包郵便物ノ郵便料ハ前納ニ限ル但シ該郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外へ轉送スル場合ハ後納トス此場合ニ於テ還付料及差出人ノ請求ニ依

ル轉送料ハ差出人ヨリ徵收シ受取人ノ請求ニ依ル轉送料ハ受取人ヨリ徵收ス

第三十二條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ郵便物差出ノ際宛地ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫

メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三類 郵便規則

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ該郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第三十四條 特殊ノ取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ特別ノ規定アル場合ノ外凡テ前納トス

第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ(三十四年遞信省令第五十六號ヲ以テ價格表記料中改正)

- 一 別配達料 一箇ニ付 (市内ハ 金十錢 市外ハ 金三十錢)
- 他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地所轄ノ郵便局トノ里程ニ應シ別ニ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加徴ス
- 解船料ハ市内市外ニ拘ラス別ニ其ノ實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人ノヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ追徴ス

二 留置通知料 一箇ニ付 金三錢

三 配達證明料 一箇ニ付 金三錢

四 書留料 一箇ニ付 金七錢

五 價格表記料 (表記金額十圓迄ハ金十五錢十圓以上ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金五錢)

六 代金引換料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額十圓迄ハ金五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上三百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢

七 現金取立料 一口ニ付 金五錢

外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル料額

第三十六條 左記ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載セル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘシ

一 別配達郵便物

別配達又ハ何局別配達

第三類 郵便規則

- 二 留置郵便物 留置若ハ何局留置又ハ留置通知
- 三 配達證明郵便物 配達證明
- 四 書留郵便物 書留
- 五 價格表記郵便物 價格表記金何程
- 六 代金引換委託郵便物 代金引換金何程

第二節 別配達

第三十七條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

第三十八條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス

別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三節 留置

第三十九條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第四十條 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ其ノ受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス

交通不便ニシテ其受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限リ特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四節 配達證明

第四十二條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條 配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達ノ證明書ヲ差出人ニ送付ス

第五節 書留

第三類 郵便規則

第四十四條 通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモ
ノハ書留ト爲スコトヲ得ス

第四十五條 書留郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第六節 價格表記

第四十六條 有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但
シ書留ト爲シタル郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第七節 代金引換

第四十八條 價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物
ト代金トノ引換ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金三百圓トス

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其旨ヲ受取人ニ通知シ受

取人ノ出頭ヲ俟テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス其留置期間ハ十五日間トス (三十

七年遞信省令第七十號ヲ以テ本條改正)

前項留置ニ關シテハ第四十一條第三項第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十條 取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立

テタルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ヲ受

領證並ニ取立金送達料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ヲ交付ヲ受ケルコトヲ得

第五十一條 代金引換郵便物ヲ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ

記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ

供セシムルコトアルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物ノ差出人代金引換ノ取消ヲ欲シタルトキハ第

七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金又代金引換金額ノ變更ヲナサントス

ルトキハ同條郵便物名宛變更ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ之

第三類 郵便規則

ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第八節 現金取立

第五十三條 代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一日ニ付金三百圓トス
第五十四條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但シ同一ノ債權者ニ屬シ同一ノ債務者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラ

ス
第五十五條 現金取立ノ委託ヲ爲サムト欲スル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ
第五十六條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遅クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示シ際其ノ金額ヲ取立ツルコトヲ得サル場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條 現金取立郵便物ノ到着局所ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ豫告シ該期日ニ債務者ノ居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ヲ支拂テ求ム若シ債務者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂ノ拒絕ニ依ルニ在ラスシテ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以内ノ期間ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第六十條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ又ハ債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絕シタルトキ又ハ其ノ

第三類 郵便規則

金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハサルトキハ郵便局所ハ委託證券受領證ヲ引換ニ

委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條 取立郵便局所ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルト

キハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出入前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券ノ受

受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ヲ引換ニ取立金ヲ交付ヲ受クヘシ

第六十二條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第

五十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 現金取立ヲ取消ニ關シテハ第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 第九節 約束郵便 郵便物ノ種類ニ依リ郵便物ノ種類ニ依リ郵便物

第六十四條 普通郵便ニ依ル定期刊行物及印刷物ニ限り郵便官署ト特約シテ約

束郵便ト爲スコトヲ得

約束郵便トシテ差出ス郵便物ハ他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得

約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ノ印章ヲ押捺

スルコトヲ得

第六十五條 約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間

満了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金を納付スヘシ

第十節 郵便私書函

第六十六條 郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シアル郵便私書函ニ依リ何時

ニテモ普通郵便ニ依ル料金完納通常郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條 郵便私書函ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ヲ使用スルコトヲ得

第六十八條 郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ受ケ其

ノ定ムル所ニ依リ一年分金五十圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘシ

第三章 郵便物ノ差出

第六十九條 普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘシ但シ容積大ナル

カ爲メ又ハ箇數多キカ爲メ郵便函ニ差入ルルコト能ハサルモノハ郵便局所ニ

第三類 郵便規則

差出スヘシ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局所ニ差出スヘシ但シ通知ヲ要セサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 郵便局所内ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別配達郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス但シ價格表記郵便物ニ使用スル逓信省發行ノ封皮ニシテ其ノ表面ニ印刷シアル封皮ノ量目ハ之ヲ算入セス(二十四年逓信省令第五十六號ヲ以テ但書追加)

第七十二條ノ一 郵便料金ノ徴收ニ關シ同一ノ行政市區内ニ數箇ノ郵便區アルトキハ其數箇ノ郵便區ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス(三十六年逓信省令第十六號ヲ以テ追加)

前項ノ場合ニ於テ其郵便區ノ一部行政市區外ニ渉ルモノアルトキハ其行政市區外ニ渉ル部分ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

第七十二條ノ二 別配達郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル(三十五年逓信省令第五十八號ヲ以テ條中削除)

第四章 郵便物ノ配達

第七十三條 深山孤島其ノ他僻陋ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ住居スル者ニ宛タル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

第七十四條 二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ配達ス

第七十五條 郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ在ラサル者ニ配達シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ料金ヲ納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便局所ニ届出ヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手當ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 郵便局所カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ郵便物

第三類 郵便規則

ノ封皮及葉書ノ交付ヲ求メ又ハ其ノ郵便物ノ受授ニ關スル狀況ヲ探問スルト
キハ之ヲ拒ムヘカラス

第七十七條 正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲サス又ハ第七十六條ノ
要求ニ應セサル者ハ科料ニ處ス

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第七十八條 通常郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金を徴收セス

第七十九條 郵便物ノ差出人ハ未ダ配達ヲ了セサル郵便物ノ宛變更又ハ取戻
ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘ
シ

前項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ郵便物差立前アルトキハ金五錢差立後ニシテ
郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四十錢
宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ

第八十條 通常郵便物ノ受取人他ノ郵便區内ニ移轉シ其ノ移轉先分明ナルト

キハ之ヲ其ノ移轉先ヘ轉送ス

小包郵便物ハ第三十二條又ハ第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉
送ヲ請求シタルトキニ限り之ヲ轉送ス

第八十一條 通常郵便物ノ受取人既ニ其ノ宿所ヲ移轉セルトキハ其ノ配達先ニ
於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ該郵便物ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ
其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト無ク再ヒ郵便
ニ差出スコトヲ得若其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタル
モノト看做ス

通常郵便物受取人ノ移轉先不明ニシテ該郵便物ノ還付ヲ爲ス場合亦前二項ニ
準ス

第八十二條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便料不納ナルニ依リ受取
人ノカ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配達シ能ハサル

第三類 郵便規則

郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

小包郵便物ニ關シテハ前項ノ外第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ヲ爲ササル場合ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第六章 損害賠償及報酬

第八十三條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第四號ニ依ル損害ノ賠償ハ損害ヲ生セシメタル郵便遞送人及郵便集配人ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ
郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求メタル郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

第八十四條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害アリト申立タルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナシト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出ツル場合ノ外損害調書ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第八十五條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依ル還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第八十六條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別、品名、箇數、

第三類 郵便規則

實價、請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ若前二條ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ爲サントスルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添附スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第八十七條 損害賠償及報酬ノ請求ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ於テハ其ノ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

第八十八條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ郵便局所ハ直ニ該郵便物ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第八十九條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 書留郵便物ト失フトキハ一箇ニ付金十圓
- 二 價格表記郵便物ト失フトキハ表記金額ノ全額、毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受當時ニ於ケル引受郵便局所所在地ノ價格ニ依ル
- 三 小包郵便物ト失フハ毀損ノトキハ重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金二十錢
- 四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失効ノトキハ其ノ實損額

附則

第九十條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年(三月)遞信省令第八號配達證明郵便規則同二十九年(九月)遞信省令第十九號代金引換小包郵便規則及此ノ規則ニ抵觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

●郵便物包裝規則

(明治三十四年十二月十二日) 遞信省令第五十七號

郵便物包裝規則左ノ通相定メ本月二十一日ヨリ施行ス

郵便物包裝規則

第三類 郵便物包裝規則

第一條 定期刊行物、書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖ハ開封トナシ又ハ帶紙若クハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雛形、博物學上ノ標本、農產物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ囊ニ納ムル等容易ニ内品ヲ點檢シ得ヘキ様包裝スヘシ

但蠶種ハ郵便局所ノ承認ヲ經テ之ヲ密閉スルコトヲ得

第二條 小包郵便物ハ強質ノ紙又ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ箱又ハ罐等ニ入レ適當ニ包裝シ外包ヲ毀損スルニ非サレハ内品ニ毀損ヲ被ラシムルコトナキ様充分ノ包裝ヲ爲スヘシ

第三條 鋒刃其他之ニ類スル物品ハ適當ノ鞘ニ藏メ又ハ其危險ノ部分ヲ覆ヒテ之ヲ箱ニ藏メ外覆ヲ毀損セサル様包裝スヘシ
第四條 流動體若クハ溶解シ易キ物又ハ臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ罐又ハ罐ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密閉シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ但容易ニ溶解セサルモ尙溶解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件等ハ防水布又ハ澁紙ノ

類ヲ以テ適宜ニ包裝スヘシ

第五條 價格表記通常郵便物ハ其内品ノ種類ニ從ヒ適當ニ包裝シ尙ホ之ヲ遞信省發行ノ封皮ニ納ムヘシ但シ形狀ニ依リ遞信省發行ノ封皮ニ納メ難キモノハ適宜之ヲ包裝シ郵便局所ノ承認ヲ受ケヘシ

第六條 價格表記郵便物ハ其封目ニ遞信省發行ノ封緘紙ヲ貼付シ其封緘紙ト封皮トニ掛ケテ鮮明ニ封印スヘシ

第七條 價格表記郵便物ニ使用スル封皮及封緘紙ハ郵便局所及郵便切手賣下所ニ於テ之ヲ賣下クルモノトス
前項ノ封皮及封緘紙ノ代價ハ別ニ之ヲ告示ス

● 第三種郵便物認可規則

(明治三十三年九月二十九日 遞信省令第七十三號)

第三種郵便物認可規則左ノ通定ム

第三種郵便物認可規則

第三類 第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスルモノハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ一等郵便電信局ヘ願出ツヘシ

第二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 毎月一回以上逐號定期ニ發行スルコト

二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカヲサルコト

三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト

四 政事、時事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ發行ノ目的ト爲シ且ツ汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條 本規則ニ依リ認可ヲ受ケントスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

一 題號

二 記載事項ノ種類

三 發行ノ定日

四 發行所

五 發行人ノ住所氏名

第四條 前條ノ出願人ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用井認可願書ニ貼附スヘシ若認可ヲ與ヘサルトキハ之ヲ還付ス

第五條 本規則ニ依リ認可ノ效力ハ最初認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其效力ヲ失フ

第六條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行毎ニ先ツ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ見本一部ヲ差出スヘシ

第七條 第三條各號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行禁止ノトキハ其ノ發行人ヨリ七日以内ニ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ之ヲ届出ツヘシ

第三類 第三種郵便物認可規則

第八條 本規則ニ依リ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ第二條各號ノ條件ヲ缺キ若ハ第六條ノ見本ノ差出又ハ届出ヲ怠リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

附則

第九條 本規則ハ郵便法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年(二月)遞信省令第四號第三種郵便物認可規則及本規則ニ抵觸スル規定ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條 明治二十五年(二月)遞信省令第四號第三種郵便物認可規則ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ尙其ノ效力ヲ有ス

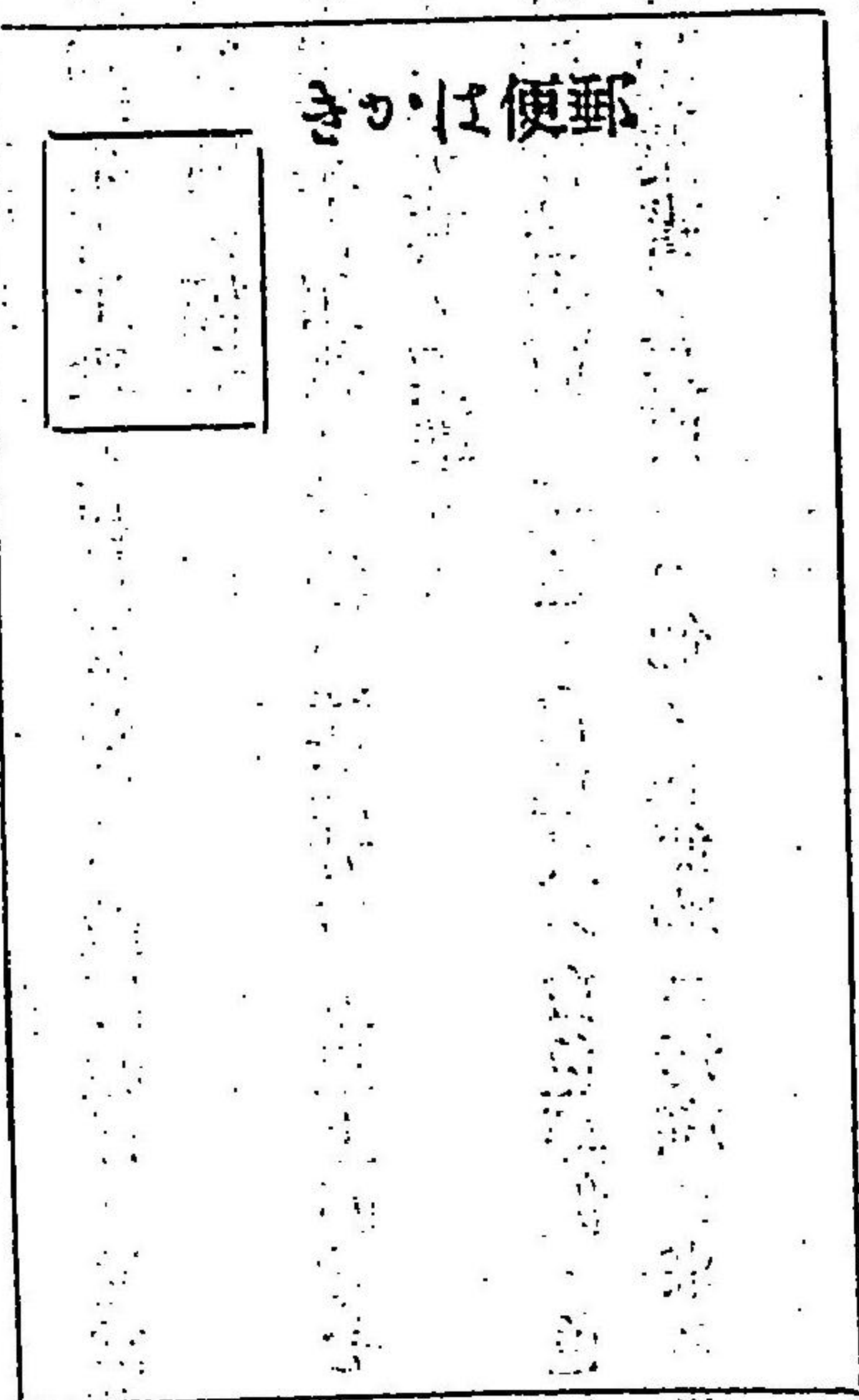
●私製葉書製式規則

(明治三十六年十二月十七日) 遞信省令第六十二號

私製葉書製式規則左ノ通相定メ本日ヨリ施行ス

私製葉書製式規則

第一條 私製葉書ノ表面ニハ脱色セサル印肉ヲ以テ左式ノ如ク鮮明ニ印刷スヘシ



第二條 私製葉書ノ表面ニハ前條記載文句ノ外宛名ノ記入ヲ妨ケサル限りハ左ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

一 郵便葉書ニ相當スル外國文字

二 萬國郵便聯合ノ文字及之ニ相當スル外國文字

第三類 私製葉書製式規則

- 三 政府發行ノ通常葉書ト同一ノ注意文又ハ切手貼付方ノ注意文
- 四 發行所、賣捌店ノ所在名稱
- 五 模様付輪廓但シ廣告文等或ル意味ヲナス文字ヲ用ウルコトヲ許サス
- 第三條 私製葉書用紙ノ品質ハ精良ニシテ韌力強ク且曲折ノ虞ナク政府發行ノ通常葉書ト同質以上ノモノタルコトヲ要ス
- 第四條 私製葉書用紙ノ重量及厚サハ政府發行ノ通常葉書若クハ萬國郵便聯合葉書ヲ以テ其ノ標準トス
- 第五條 私製葉書用紙ノ寸法ハ縱四寸五分以上四寸七分以内横二寸八分以上三寸以内ヲ以テ其ノ標準トス
- 第六條 私製葉書表面ノ紙色ハ白色又ハ白色類似ノ色合タルヘシ
- 第七條 私製葉書ノ裏面ニハ他ノ郵便物ニ汚斑ヲ來スカ如キ著色ヲナスコトヲ得ス
- 第八條 透シ畫浮出ハ宛名ノ記入ニ妨ナク且第三條ノ主旨ニ牴觸セサル限りハ

之ヲ施スコトヲ得

第九條 外國郵便規則第七條ニ依リ調製シタル私製端書ハ之ヲ内國郵便ニモ使用スルコトヲ得

第十條 本規則ノ規定ニ違背シタル私製葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

附則

第十一條 明治三十三年(九月)遞信省告示第三百五十八號及同年(十月)遞信省告示第三百九十七號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●清韓小包郵便規則

(明治三十三年九月十一日) 遞信省令第五十六號

清韓小包郵便規則左ノ通相定ム

第一條 清韓小包郵便規則

第二條 日本、清、韓三國相互間並ニ清、韓各國內ニ發著スル小包郵便物ニハ

第三類 清韓小包郵便規則

本規則並ニ明治三十三年(九月)遞信省令第四十二號郵便規則中本規則ニ抵觸セサル規定ヲ適用ス

第二條 郵便規則ニ掲グル郵便禁制品ノ外關稅定率法其ノ他ノ法令並ニ條約ニ依リテ輸出輸入ヲ禁シタル物品ヲ清韓小包郵便禁制品トス

第三條 日本、清、韓三國相互間ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ(三十五年遞信省令第五十九號ヲ以テ本條改正)

二百匁マテ 三十錢

四百匁マテ 三十五錢

六百匁マテ 四十錢

九百匁マテ 五十錢

一貫二百匁マテ 六十錢

一貫五百匁マテ 七十錢

清、韓各國國內ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ日本内地小包郵便物ノ料金ニ

同シ

第四條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ保有品ノ品名數量及價格ヲ送票中ニ記載スヘシ但シ日本、清、韓三國相互間若ハ清國內ニ發著スル小包郵便物ノ場合ニ於テハ其ノ保有品ノ正味重量ヲモ送票中ニ記載スヘシ(三十六年遞信省令第二十九號ヲ以テ改正)

第五條 清國及韓國ニ於ケル小包郵便物ノ配達及別配達ハ所在日本郵便局所ニ於テ郵便物ノ配達ヲ施行スル地ニ宛タルモノニ限り之ヲ施行ス其ノ以外ノ地ニ宛タルモノハ總テ之ヲ到着郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

前項小包郵便物留置ノ期間ハ三十日トス

第六條 清國若ハ韓國發日本へ到着ノ小包郵便物カ輸入稅若ハ内國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以内ニ輸入稅ノ場合ニ於テハ稅額ニ相當スル收入

第三類 清韓小包郵便規則

印紙ヲ通知書ニ貼付シ内國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第六十五號ニ據リ收入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ該輸入物品ニ貼付シ郵便局所ノ沿印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ(三十七年遞信省令第四十一號ヲ以テ本條改正)

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ
關稅若ハ内國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決ヲ得タルトキ亦同シ

第七條 前條ノ小包郵便物ノ保有品カ關稅定率法、稅關法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セララルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ントスルニキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ
前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關ヨリ關稅免除許否ノ通知ヲ得タルトキハ其ノ

書類ヲ郵便局所ニ提出スベシ

第八條 第六條ノ郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第七條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス

第九條 日本若ハ清國發韓國へ到着ノ小包郵便物カ韓國稅關ニ於テ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ其ノ郵便物ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十條 輸入稅ノ納付ヲ經テ韓國ニ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ關シ日韓條約ニ規定スル期間ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナ

第三類 清韓小包郵便規則

ルヲ要ス

第十一條 韓國ヨリ日本若ハ清國へ宛小包郵便物ヲ差出ストキハ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物保有品ノ價格ノ百分ノ五ニ當ル金額ヲ輸出税トシテ韓國稅關ニ代リ徵收ス

前項ノ輸出税ハ其ノ金額カ金五十錢ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セス

第十二條 輸出税ノ納付ヲ經テ韓國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサル爲韓國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ韓國稅關ヨリ既納税金ノ拂戻ヲ受ケテ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス但シ此ノ場合ニ於ケル郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十三條 韓國政府ノ特許ヲ要スル物品ヲ小包郵便物トシテ韓國ヨリ日本若ハ清國へ差出ストキハ其ノ特許證ノ謄本ヲ添附スヘシ若シ之カ添附ナキモノハ郵便局所ニ於テ發見スルトキハ其ノ韓國ヨリ輸出前ニ係ルモノハ之ヲ差出人ニ還付シ又輸出後ニ係ルモノハ之ヲ韓國稅關ニ交付シ其ノ事由ヲ差出人ニ通

知ス

前項ノ郵便物カ韓國稅關ヨリ郵便局所ニ返付セラレタル場合ニ於テハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十三條ノ二 日本若ハ韓國發清國へ到着ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ發シ清國內へ到着ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸入税ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添へ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ受取人ヨリ直接ニ税金ヲ稅關ニ納付シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ郵便局所ニ差出スモ妨ケナシトス(三十六年遞信省令第二十九號ヲ以テ追加)

受取人前項ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第一項ノ輸入税ハ其ノ金額カ清貨半兩ニ滿タサルトキハ之カ徵收ヲ免除セラレルモノトス

第十三條ノ三 輸入税ノ納付ヲ經テ清國へ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ

第三類 清韓小包郵便規則

關シ日清條約ニ規定スル期間内ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ又前條第一項但書ニ屬スルモノニ付テハ直接ニ清國稅關ニ差出スヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス(同上)

第十三條ノ四 清國ヨリ日本若ハ韓國へ發送ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ清國內へ發送ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸出稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ差出人ニ送付ス差出人ハ通知書ノ日附ヨリ十日以内ニ通知書ニ稅金ヲ添へ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ差出人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ還付ス(同上)
差出人ハ豫メ其ノ差出サムトスル小包郵便物ヲ稅關ニ差出シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ添附シテ郵便局所ニ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ手續ヲ要セス

第一項ノ輸出稅ハ其ノ金額カ清貨半兩ニ滿タサルトキハ之カ徵收ヲ免除セラレルモノトス

第十三條ノ五 輸出稅ノ納付ヲ經テ清國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサルカ爲清國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ清國稅關ヨリ既納稅金ノ拂戻ヲ受ケ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス前條第二項ニ屬スルモノニ付テハ差出人ヨリ直接ニ清國稅關ニ申出ツヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス(同上)

第十四條 日本、清、韓三國相互間ニ於テ小包郵便物ヲ還付又ハ轉送スルトキハ更ニ第三條ノ郵便料ヲ徵收ス
小包郵便物ノ還付又ハ轉送ノ爲關稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ其ノ輸出稅ハ差出人又輸入稅若ハ內國稅ハ受取人ヨリ之ヲ徵收ス(三十七年遞信省令第四十一號ヲ以テ本項中改正)

第三類 清韓小包郵便規則

第十五條 日韓間發著小包郵便物ノ電信ニ依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金一圓二十錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金三圓十錢トシ清國內地間並ニ清國ト日本ト韓國トノ間ニ發著スル小包郵便物ノ取戻者ハ名宛變更又ハ代金引換ノ取消若シ金額變更ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス(三十八年遞信省令第五十二號ヲ以テ改正)

第十六條 清、韓兩國ノ郵便局所ニ差出シタル小包郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差出郵便局所ニ請求スヘシ但郵便受取所ニ差出シタルモノニ付テハ該受取所ヲ管轄スル局所ニ請求スヘシ

第十七條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年(三月)遞信省告示第九十七號ハ之ヲ廢止ス

●外國郵便規則 (明治三十五年十一月八日) (遞信省令第五十二號)

明治三十三年(九月)遞信省令第五十五號外國郵便規則左ノ道改正ス

第一章 外國郵便規則

第一條 萬國郵便條約ニ依ル各種郵便物並ニ價格表記信書及箱物交換約定ニ依ル信書及箱物ハ之ヲ外國郵便物ト總稱シ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ

之ヲ取扱ハズコトヲ告示シタル局所ハ此ヲ限リ在ラズ

第二條 左記ノ物件ヲ外國郵便禁制品トシテ之ヲ郵便局所ニ送付スルコトヲ許サ

一 郵便ニ關スル條約ニ約定及其施行細則ニ據リ郵便物ト爲スコトヲ許サ

二 郵便物ト爲スコトヲ禁シタル物件

三 關稅及其他ニ關スル法令ニ據リ輸出入ヲ禁シタル物件

四 特別ニ告示シタル物件

第三條 外國郵便ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條 外國郵便ニ關スル料金ヲ還付ニ付テハ明治三十三年(九月)遞信省令

第三類 外國郵便規則

第四十二條 郵便規則第八條及第九條ノ規定ヲ準用ス但シ前掲第九條ノ期間ハ
第六箇月トス

第五條 信書ノ容積及重量ニ付テハ何等ノ制限ナシ

第六條 外國ヘ發送スル郵便端書ハ政府發行ノ萬國郵便聯合端書、同往復端書
ヲ用ニヘシ

第七條 郵便規則第十八條ノ規定ヲ準用シテ政府發行ノ萬國郵便聯合端書ニ基
キ作成セル私製端書ハ萬國郵便聯合端書ト看做ス

第八條 內國郵便用ノ封緘葉書ハ郵便端書トシテ外國ヘ發送スルヲ得ス

第九條 價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國トノ間ニ限り之ヲ交換スル
コトヲ得

第十條 價格表記信書及箱物ハ價格表記金額ノ制限ハ一萬フランクトス
第十一條 價格表記信書及箱物ノ價格表記ノ金額ニシテ本邦貨幣ニテ記載シア
ルトキハ郵便局所ニ於テ外國爲替金換算割合ニ依リ之ヲ佛貨ニ換算シ郵便物

ニ記入ス

第十三條 外國ヨリ到着ニ係ル價格表記箱物ニ付テハ明治三十五年(十一月)遞

信省令第五十三條外國小包郵便規則第二十一條乃至第二十四條ノ規定ヲ準用ス
第十三條 普通及書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國ト

ノ間ニ交換スルモノニ限り別配達ト爲スコトヲ得
別配達料ハ金十二錢トシ差出人ニ於テ之ヲ前納スヘシ

第十四條 外國ヨリ到着ニ係ル留置郵便物ノ留置期間ハ代金引換郵便物ヲ除ク
ノ外六十日トス但シ艦船乗組人若ハ旅行者等ニ宛テタル郵便物ニシテ交付ノ

見込アルモノハ尙三十日以内留置クコトアルヘシ
第十五條 書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國トノ間ニ

交換スルモノニ限り代金引換ト爲スコトヲ得
第十六條 本邦宛代金引換郵便物ニ對スル取立代金ノ制限ハ金四百圓トス

第十七條 外國宛代金引換郵便物ニ對スル取立代金ノ制限額、其ノ代金ヲ表示
第三類 外國郵便規則

スヘキ貨幣並ニ外國ニ於ケル該郵便物ノ取扱局ハ別ニ告示スル所ニ據ル
第十八條 外國宛代金引換郵便物ノ差出人ハ郵便物差出ノ後ハ代金引換ノ請求
ヲ取消スコトヲ得

第十九條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換郵便物ニ付テハ郵便規則第四十九條第
一項ノ規定ヲ準用ス

到着郵便局所ハ前項ニ依リ取立テタル代金ヨリ引換料金四錢及取立代金ニ對
スル成規ノ爲替料ヲ控除シタル後殘餘ノ金額ヲ郵便爲替ニ依リ差出人ニ送付
スルモノトス

第二十條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換郵便物ニシテ名宛人他國へ移轉シタル
トキ若ハ成規ノ條件ニ適合セザルトキハ差出國へ返送スルモノトス

第二十一條 外國宛代金引換郵便物ノ取立代金ニ對スル爲替ニシテ其ノ有效期
間内ニ該郵便物ノ差出人ニ拂渡シ能ハザルトキハ郵便爲替法第十三條ノ規定
ニ準シ處分スルモノトス

第二十二條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニ付テハ郵便規則第八十一條ノ規定ヲ
準用ス但シ同條第三項ノ期間ハ三十日トシ同期間ヲ經過シタル後郵便ニ差出
シタルモノニ付テハ疊ニ配達ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ轉送ニ要スル料金を納
付セシム

第二十三條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ノ名宛人一時其ノ宿所ヲ移轉シタルト
キハ別ニ料金を納付スルコトヲク其ノ移轉先ニ該郵便物ノ轉送ヲ請求スルコ
トヲ得

第二十四條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニシテ何等ノ理由ヲ問ハズ名宛人ニ交
付シ能ハサルモノハ外國へ返送スルニ先チ適宜ノ期間之ヲ公示ス但シ名宛人
ニ交付ノ見込ナキコト明瞭ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 外國宛郵便物ハ別ニ告示スル諸外國ニ宛テタルモノニ限り其ノ取
扱若ハ名宛變更ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ニ付テハ郵便規則第七十九條第二項ノ規定ヲ準用ス但シ外國へ差

第三類 外國郵便規則

立前ニ係ルモノニ付テハ同條第二項ノ規定ヲ準用シ其ノ外國ヘ差立後ニ係ルモノニ付テハ請求者ニ於テ郵便ニ依ルモノハ別ニ告示スル所ノ名宛國郵便官署宛書留信書一通分ノ料金、電信ニ依ルモノハ同官署宛私用電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第二十六條 外國普通郵便物ノ踪跡不明ニ歸シタルトキハ外國宛ノモノニ付テハ其ノ差出人ヨリ引受郵便局所ヘ又外國ヨリ到着ニ係ルモノニ付テハ其ノ名宛人ヨリ到着郵便局所ヘ踪跡不明ノ旨ヲ證明スヘキ書類ヲ具シ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其ノ取調ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ該郵便物ヲ郵便局所ニ差出シタル日ヨリ起算シ一箇年以内ニ限リ之ヲ受理ス

第二十七條 到達證ヲ請求セサル書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ノ差出人ハ郵便物一箇ニ付金五錢ヲ納付シ該郵便物踪跡ノ取調若ハ其ノ到達證ノ交付ヲ引受郵便局所ヘ請求スルコトヲ得

第二十八條 價格表記信書若ハ箱物ノ配達若ハ還付ノ際該郵便物ニ損害アリト申立テタル者アルトキハ郵便規則第八十四條及第八十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 價格表記信書及箱物ノ亡失若ハ毀損ニ關シ損害ヲ請求セム間トスル者ハ該郵便物ノ種別、便名、番號、名宛人及差出人ノ住所氏名、差出日附、保有品名、數量、實價、損害前後ノ重量、請求金額及料金ノ還付ヲ求ムルトキハ其ノ金額ヲモ記載シタル請求書ニ成ルヘク並ニ引受局所ヨリ交付ヲ受ケタル受取證ヲ添ヘ該郵便物ノ引受局所若ハ場合ニ依リ配達局所ニ差出スヘシ賠償ノ責ニ任スル諸外國發著書留郵便物ノ亡失ニ對スル賠償ノ請求ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ準用ス

第三十條 損害賠償ノ當否及其ノ金額ハ遞信省ニ於テ之ヲ審査決定ス
第三十一條 損害賠償ノ請求ニ關スル審査ヲ了リタルトキ又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニテ價格表記信書若ハ箱物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ該郵便物ノ本邦管掌中ニ在ル限ハ直ニ之ヲ其ノ請求人ニ

第三類 外國郵便規則

交付スルモノハ、
 第三十二條、郵便規則第七條、第十一條、第十二條、第十六條、第十七條、第三十八條、第三十九條、第六十六條、第六十九條乃至第七十一條、第七十三條乃至第七十八條、第八十條第一項、第八十三條第二項及第三項、第八十六條第二項及第八十七條ノ規定ハ、外國郵便物ニモ之ヲ準用ス

附則

第三十三條 此ノ規則ハ明治三十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國小包郵便規則

(明治三十五年十一月八日) (遞信省令第五十二號)

明治三十四年(十一月) 遞信省令第五十一號外國小包郵便規則左ノ通改正ス

外國小包郵便規則

第一條 條約若ハ約定ニ據リ本邦及諸外國間ニ交換スル小包郵便物(以下單ニ外國小包郵便物ト略稱ス)ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但特ニ取扱ハサルコ

トヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左記ノ物件ヲ外國小包郵便禁制品トス

一 小包郵便ニ關スル條約、約定及其ノ施行細則、細目規則ニ據リ小包郵便物ト爲スコトヲ許ササル物件

二 郵便ニ關スル法令ニ據リ小包郵便物ト爲スコトヲ禁シタル物件

三 關稅及其ノ他ニ關スル法令ニ據リ輸出入ヲ禁シタル物件

四 特ニ告示シタル物件

第三條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲ズニ在ラザ

レハ外國小包郵便物トシテ差出スコトヲ得ス但價格表記ノ取扱ヲナササル諸國ハ宛タル小包郵便物若ハ其ノ取扱ヲ許ササル條約又ハ約定ニ據リ差出スモ

ノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 華盛頓小包郵便條約ニ據ル取扱ニ困難ナル小包郵便物ハ之ヲ取扱ハス

第四條ノ二 米國トノ條約ニ據ル小包郵便物ニシテ本邦引受ニ係ルモノヲ本邦

第三類 外國小包郵便規則

疆内ニ於テ亡失若ハ毀損セシメタル場合ニ於テハ内國小包郵便物ノ例ニ依リ賠償ヲ爲ス(三十七年遞信省令第五十一號ヲ以テ追加)

第五條 外國小包郵便物ノ寸尺、重量及容積ノ制限ハ特ニ告示スルモノノ外條約若ハ約定及其ノ施行細則、細目規則ノ規定ニ依ル但名宛國ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 外國小包郵便物ノ郵便料並ニ其ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

外國小包郵便ニ關スル料金ハ郵便切手ヲ以テ前納スヘシ但轉送、返送ノ場合ニ於ケル郵便料及保險料ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テ轉送、返送ニ要スル料金ヲ前納セサルトキハ轉送料ハ受取人ヨリ又返送料ハ差出人ヨリ徴收ス

第七條 外國小包郵便ニ關スル料金以外ノ金額ハ配達ノ際受取人ヨリ徴收ス
第八條 外國小包郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載スルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徴收シタル郵便料過徵額及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタルモノニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四 亡失ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ郵便料及踪跡取調ノ料金
第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六箇月トス

第十條 外國小包郵便物ノ差出人ハ送狀通知券ニ其ノ小包郵便物ニ關スル通知文ニ限リ記載スルコトヲ得但其ノ記載ヲ許ササル諸國ニ宛テタルモノ若ハ之ヲ許ササル條約又ハ約定ニ據リ差出スモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 外國小包郵便物ノ差出人ハ小包郵便物差出ノ際名宛國ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂グル能ハサル場合ニ於ケル該小包郵便物ノ轉送、返送又ハ棄却

第三類 外國小包郵便規則

等ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得但之ヲ取扱フ許ササル條約若ハ約定ニ依リ差出ス小包郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 外國小包郵便物ノ受取人ハ該小包郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

外國小包郵便物ノ受取人其ノ宿所ヲ本邦郵便管轄區内ニ於テ移轉シ其ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其移轉先ニ轉送ス

本邦郵便管轄區内轉送ノ場合ニハ何等ノ料金ヲ徵收セス

第十三條 價格表記又代金引換ノ金額ノ制限ハ各一于「フランク」トス但名宛國ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第十四條 外國小包郵便物ニハ其ノ表面名宛ノ箇所ニ見易キ様華盛頓條約ニ據リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「萬國小包」、英國及其ノ他ノ諸國トノ條約若ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」、「加那太小包」、「米國小包」等其ノ便名ヲ記載スヘシ(三十七年遞信省令第五十一號ヲ以テ條中改

正)

第十五條 外國小包郵便物ヲ差出サムトスルトキハ郵便局所ヨリ香港、加那太及米國トノ條約、約定ニ據ル場合ハ稅關告知書、其ノ他ノ條約、約定ニ據ル場合ハ送狀及稅關告知書ノ式紙ヲ受取リ之ニ各其ノ指定ノ事項ヲ記載シ且料金相當ノ郵便切手ヲ各其ノ小包郵便物ニ貼附シテ共ニ之ヲ該郵便局所ニ差出シ受領證ヲ受取ルヘシ(同上)

第十六條 特殊取扱ヲ許容スル條約若ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ニ對シ其ノ特殊取扱ヲ請求セムトスルトキハ左ニ記載セル文字ヲ該小包郵便物ノ表面名宛ノ箇所並ニ之ニ附屬スヘキ送狀ノ式紙ニ記入スヘシ(同上ヲ以テ第五號追加)

- 一 價格表記ヲ請求セムトスルトキハ
- 一 價格記何程表 (Valeur déclarée)
- 二 代金引換ヲ請求セムトスルトキハ

第三類 外國小包郵便規則

代金引換何程 (Remboursement)

- 三 別配達ヲ請求セムトスルトキハ
別 配 達 (Expres)
- 四 到達證ヲ請求セムトスルトキハ
到 達 證 (Avis de réception)
- 五 書留ヲ請求セムトスルトキハ
書 留 (Registered)

前項ノ特殊取扱ハ名宛國ニ於テ其ノ事務ヲ取扱フ諸國ニ宛タル小包郵便物ニ限ル

價格表記及代金引換ノ金額ハ本邦ノ通貨ヲ以テ之ヲ記載スヘシ但錢位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第十七條 價格表記若ハ代金引換ノ外國小包郵便物ノ表記金額ハ差立若ハ到着ノ際遞信大臣ノ指定スル郵便局所ニ於テ外國郵便爲替金換算ノ例ニ依リ外國

ハ差立ツルモノニ付テハ佛貨「フラング」サンチームニ又外國ヨリ到着ノモノニ付テハ本邦貨幣ニ換算ス

第十八條 代金引換外國小包郵便物ハ名宛郵便局所ニ留置キ其ノ到着ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項ノ留置期間ハ通知書ノ日附ヨリ起算シ三十日トス

第十九條 引換代金外國小包郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該小包郵便物ノ受領證ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受ケヘシ

第二十條 外國小包郵便物ニシテ到達證請求ノモノハ其ノ配達ノ際受取人チシテ配達證ノ外到達證ニモ記名調印セシム

第二十一條 外國小包郵便物ノ差出人ハ未タ配達ヲ了ラサル小包郵便物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但之カ取扱ヲ許ササル條約若ハ約定ニ據リ

第三類 外國小包郵便規則

差出タル小包郵便物ハ此ノ限ニ在ラズ運送キ得ルモノトシテ其ノ運送料金ヲ前納スヘシ
 前項ノ請求ヲ爲サズトスル者ハ別ニ告示スル料金ヲ前納スヘシ
 第三十三條 外國小包郵便物ニシテ關稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ
 之ヲ郵便局所ニ留置キ到着通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ヲ日付ヨ
 リ三十日以内ニ關稅ノ場合ニ於テハ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付
 送內國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第六十五號ニ據リ收入印紙若ハ
 特別ノ印紙ヲ通知書若ハ該輸入物品ニ貼付シ郵便局所ノ消印ヲ受ケ通知書ハ
 之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ(三十七年遞信省令第四
 十號ヲ以テ本條改正)
 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ
 申立且其ノ事由ヲ關係郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ
 其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ
 關稅若ハ內國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決ヲ

得タルトキ亦同シ
 第二十三條 前條ニ掲グル外國小包郵便物ノ保有品力關稅定率法若ハ其ノ他ノ
 法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得
 ズトスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ關係郵便局所ニ申出ヘシ
 前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關免除許否ノ通知ヲ得タルトキ其ノ書類ヲ該
 郵便局所ニ差出スヘシ
 第二十四條 第二十二條ノ外國小包郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合
 ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第二十三條ノ場合ニ於テハ
 關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス
 第二十五條 受取人ニ配達交付スルコト能ハサル外國小包郵便物ノ處分方ニ關
 シ郵便局所ヨリ差出人ニ問合書ヲ送付シタルトキハ問合書ノ日附ヨリ三十日
 以内ニ轉送、返送若ハ棄却等其ノ希望ヲ該郵便局所ニ申出ヘシ
 第二十六條 外國小包郵便物ノ差出人ハ小包郵便物差出後相當ノ料金を納付シ
 第三類 外國小包郵便規則
 三百三十一

テ到達證ノ交付者ハ到達證料金ト同額ノ料金を納付シテ該小包郵便物ノ踪跡
取調ヲ引受郵便局所ニ請求スルコトヲ得

到達證若ハ書留ヲ請求シタル小包郵便物ニ付テハ別ニ料金を納付スルコトヲ
ク前項ノ踪跡取調若ハ到達證ノ交付ヲ引受郵便局所ニ請求スルコトヲ得(三
十七年遞信省令第五十一號ヲ以テ本項中改正)

前二項ノ請求ハ小包郵便物ヲ郵便局所ニ差出シタル日ヨリ起算シ一箇年以内
ニ限り之ヲ受理ス

第二十七條 外國小包郵便物ノ配達又ハ還付ノ際小包郵便物ニ損害アリト申立
テタル者アルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ
有無ヲ検査ス

前項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキハ申立人受取人ナルトキハ小包
郵便物ハ配達シ能ハサルモノトシテ之ヲ取扱ヒ申立人差出人ナル場合ニ於テ
ハ郵便法第十四條ニ依ル還付シ能ハサル小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第二十八條 外國小包郵便物ニ關シ損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ差出人ノ場合ニ
ハ其ノ小包郵便物ノ引受ヲ爲シタル郵便局所ニ又受取人ノ場合ニハ其小包郵
便物ノ配達ヲ爲スヘキ郵便局所ニ該小包郵便物ノ便名、種別、番號、受取人
及差出人ノ宿所氏名、差出日附、保用品名、數量、請求金額及料金ノ返還ヲ
求ムルトキハ其ノ金額ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第二十九條 損害賠償請求ノ當否及其ノ金額ハ遞信省ニ於テ之ヲ審査決定ス

第三十條 損害賠償ノ請求ニ關スル審査ヲ了リタルトキハ其ノ小包郵便物ノ本邦管掌中ニ在
爲シタルモノ其ノ請求ヲ取消シタルトキハ其ノ小包郵便物ノ本邦管掌中ニ在
ル場合ニ於テハ直ニ之ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第三十一條 郵便規則第四條、第七條、第十條、第十一條、第十二條、第七十
條、第七十一條、第七十二條、第七十三條、第七十四條、第七十五條、第七
十六條及第七十七條ノ規定ハ外國小包郵便物ニモ之ヲ準用ス

附 則

第三類 外國小包郵便規則

第三十二條 本規則ハ明治三十五年十二月一日ヨリ施行ス

三百二十四

●郵便貯金

●郵便貯金法

(明治三十八年二月十五日)
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便貯金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金法

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ

爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

一 一度ノ預入額

十錢以上

二 貯金總額

千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲ケル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セズ

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金

二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金

三 産業組合ノ預入金

四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキ

ハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタ

ル貯金ノ外利子ヲ付セス

前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキハ現

ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯

金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減

第三類 郵便貯金法

三百二十五

額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管ス
ヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ
預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證
券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證券ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者
ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ
讓渡スコトヲ得ス

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタ
ルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠
償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル爲預ケ人ヲシテ必要ナ
ル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閲ノ爲ニスル通
帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出
又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日內ニ通帳ヲ
提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ依ル證券
ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第三類 郵便貯金法

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間満了ノ日ヨリ三年間再度證書交付又ハ
拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス
一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間
ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附 則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十八年勅令第百六十四號
ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行セラル)

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス
本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過
スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便
貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨ
リ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ

公告シ尙一年內ニ之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ
國庫ノ所有ニ歸ス
本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有効期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

●郵便貯金規則

(明治三十八年五月十八日
逓信省令第三十六號)

郵便貯金規則左ノ通相定ム

郵便貯金規則

目次

- 第一章 總則
- 第一節 通則
- 第二節 貯金利子
- 第三節 通帳檢閱
- 第四節 再度通帳
- 第三類 郵便貯金規則

第五節 讓渡及相續

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第二節 郵便切手預入

第三節 證券預入

第四節 局所外預入

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第二節 通常拂戻

第三節 特殊拂戻

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第二節 證券購入及保管

第三節 證券交付及賣却

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第二節 據置貯金

第三節 共同貯金

第四節 海外貯金

郵便貯金規則

第一章 總則

第一節 通則

第一條 郵便貯金ハ特ニ告示シタル場合ヲ除クノ外何レノ郵便局所ニ於テモ之

ヲ取扱フ

第二條 左ノ貯金預入人ハ貯金ノ目的ヲ異ニスル場合ニ限リ二冊以上ノ通帳ヲ

所持スルコトヲ得

第三類 郵便貯金規則

二 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體

三 規約貯金ノ預ケ人

四 共同貯金ノ總代人

第三條 貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ貯金ノ目的ヲ表示スヘキ

簡單ナル文詞徵號ヲ印刷又ハ筆書スルコトヲ得

第四條 郵便貯金ノ受入及拂出ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ貯

金預ケ人原簿ニ登記ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預入金ヲ原簿ニ登記シタルトキハ其ノ

旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人其ノ預入ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ前項ノ通知書到達

セサルトキ又ハ通知書到達スルモ預入金額、預入年月日等ニ相違アルトキハ

速ニ其ノ旨ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ申告スヘシ

第五條 一人ノ郵便貯金總額制限ヲ超過シタルトキハ郵便官署ハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

前項ノ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ預ケ人ヨリ減額ノ請求ナキトキハ郵便

官署ハ郵便貯金法第六條ノ手續ヲ爲ス

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ於テ本規則ノ定ムル

所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ其ノ名稱ヲ記載調印シ且

其ノ代表者、管理者ニ於テ相當肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第七條 代人ニ於テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ

委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タル

ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作製ス

ルコトヲ得

第八條 貯金預ケ人ハ一名ヲ限り加印者ヲ設ケルコトヲ得

第三類 郵便貯金規則

加印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ加印者モ亦當該書類ニ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第九條 貯金預ケ人加印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及新舊加印者連署シ且新加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人其ノ加印者ヲ廢シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十條 貯金預ケ人預入開始後加印者ヲ設ケタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及加印者連署シ且加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十一條 印章ヲ所持セサル者貯金預ケ人トナルトキハ代印者二名ヲ設ケヘシ代印者ヲ設ケタル貯金額ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ本人ノ氏名ヲ記シ尙代印者記名調印スヘシ

第十二條 貯金預ケ人代印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ新舊代印者連署シ且新代印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 貯金預ケ人代印者ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及代印者連署シ且預ケ人ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條 貯金預ケ人印章ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且通帳ヲ呈示スヘシ但シ通帳ヲ呈示シ能ハサル場合ニ於テ正當本人タルコトヲ證明シ得サルトキハ郵便局所ノ相當ト認ムル保證人ヲ立ツヘシ

代印者又ハ加印者印章ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出ヲ爲スヘシ但シ加印者印章變更ノ場合ニ於テハ其ノ届書ニ預ケ人ノ連署ヲ要ス

第十五條 貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ届書ニ記名調印シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ住所ヲ郵便爲替貯金管理所受持區域内ヨリ同支所受持區域内ニ移轉シ又ハ同支所受持區域内ヨリ郵便爲替貯金管理所若ハ他ノ支

第三類 郵便貯金規則

三百三十五

所受持區域内ニ移轉シタルトキハ預ケ人原簿ニ移替テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ヲ當該郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ移替シ且通帳記號番號ヲ更訂シタル上通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證下引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者、管理者ニ異動アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊代表者、管理者連署シ尙公共團體、社寺、學校等ノ印章ヲ押捺シ且新代表者、新管理者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スシ

第十八條 特別即時拂ノ取扱ヲ受クヘキ貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲ストキハ當該特別取扱郵便局所ニ對シテモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十九條 貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ通帳中變更ニ

係ル事項ヲ訂正スヘシ

第二十條 貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ當該通帳ノ記號番號ヲ

附記スヘシ

第二十一條 郵便官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ貯金ニ關スル特別ノ取扱ヲ爲ス場合ト雖其ノ承認ヲ取消シ又ハ其ノ取扱局所ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十二條 天災其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限り本規則ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第二節 貯金利息

第二十三條 郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戻證書發行ノ前月マテ又拂戻證書ヲ發行セサルモノハ拂戻金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス但シ一口ノ預入金中十錢未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第三類 郵便貯金規則

第二十四條 貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ四月ヨリ更ニ利子ヲ附ス但シ其ノ十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十五條 貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十六條 前條ノ通帳ニ對テシハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 通帳檢閲

第二十七條 貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ檢閲ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ノ檢閲ヲ爲サムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示スル方法ニ依リ通

帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付スヘシ

第二十九條 貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付シタルトキハ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ之ニ檢閲濟ノ證印ヲ爲ス

前項檢閲濟ノ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四節 再度通帳

第三十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 通帳ヲ亡失シタルトキ
- 二 通帳毀損汚斑シシテ不判明トナリタルトキ
- 三 通帳餘白ナキニ至リタルトキ

第三類 郵便貯金規則

前項第一號及第二號ニ依ル再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一冊ニ付料金五錢ヲ徴收ス

第三十二條 貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度通帳ノ交付ヲ請ルニ付トスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ通帳アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ
第三十三條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ニ依リ再度通帳ヲ發行シ通帳ハ郵便局所ニ於テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ交付ス

第三十四條 再度通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無効トス
第五節 讓渡及相續

第三十五條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ左ノ場合ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニ讓渡スル場合

二 親族ニ讓渡スル場合

三 遺言ニ依リ讓渡スル場合

第三十六條 貯金ノ讓受人ハ速ニ貯金ノ名義書換ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ讓受人カ既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ其ノ通帳ヲ讓受ニ係ル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條 貯金讓受人貯金ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且讓受人ノ印鑑及左ノ書類ヲ添ヘ通帳下共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ
一 法人若ハ團體ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ營利ヲ目的トセサルコト

第三類 郵便貯金規則

一 承認ムヘキ相當證明書

二 親族ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ戶籍ノ謄本若シテハ抄本

三 遺言ニ依リ讓受ケタルモノナルトキハ相當ノ證明アル遺言書謄本

第三十八條 貯金讓受人貯金ヲ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言

ノ場合ヲ除ク外讓受人及讓渡人連署シ且自己名義ノ通帳及讓受ニ係ル通帳

並ニ前條各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘ

第三十九條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前二條ノ請求ニ依リ貯金ノ

名義書換又ハ轉記ヲ了シタルトキハ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換

ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十條 貯金ノ讓渡人反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ當該貯金ニ屬スル證券モ

亦讓渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 死亡ニ因ル家督相續人又ハ遺產相續人、被相續人ノ貯金ノ名義書

換若ハ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添ヘ

名義書換ノ場合ハ尙印鑑ヲ添ヘ通帳下共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證

ヲ受取ルヘシ但シ郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當保證人ヲ立テシム

ルコトアルヘシ

死亡以外ノ原因ニ依ル家督相續人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第三十七

條及第三十八條ノ例ニ依ルヘシ

第三十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第四十二條 新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙

ニ依リ貯金預入申込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ貯金預ケ人カ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ナルトキハ

第三類 郵便貯金規則

貯金預入申込書ニ相當證明書ヲ添付スヘシ

第四十三條 郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名

義ノ通帳ヲ調製シ預入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス

貯金預ケ人通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ印鑑欄ニ預入申込書ニ使用

シタル印章ヲ押捺スヘシ

第四十四條 貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ郵便局所

ニ差出シ通帳ニ預入金ヲ記入ヲ受ケヘシ

第四十五條 貯金預ケ人通帳ヲ郵便官署ニ提出申貯金ノ預入ヲ爲サムトスルト

キハ郵便局所ニ通帳受取證ヲ呈示シタル上現金ヲ差出シ其ノ假預リ證ヲ受取

ルヘシ

貯金預ケ人通帳ノ返付ヲ受ケタルトキハ預入ヲ爲シタル郵便局所ニ前項ノ假

預リ證ヲ差出シ通帳ニ預入金ノ轉記ヲ受ケヘシ

第四十六條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額、預入年

月日其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シ且目附印ヲ押捺シテ之ヲ證明

ス

第二節 郵便切手預入

第四十七條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ三種トス

一 五厘郵便切手

二 一錢郵便切手

三 二錢郵便切手

第四十八條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手貯金臺紙

ニ印刷シタル郵便切手印面金額ト同一種類ノ郵便切手ヲ臺紙相當欄全部ニ貼

附シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ヲ記入ヲ受ケヘシ

前項ノ臺紙ニ印刷シタル切手印面金額ハ之ヲ預入金ニ加算ス

第四十九條 郵便切手貯金臺紙ハ秘製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項臺紙ノ紙質、寸法及必要ナル欄劃ハ郵便官署發行ノモノト同様ナルコト

第三類 郵便貯金規則

ヲ要ス但シ郵便切手印面ヲ印刷スルコトヲ得ス

第五十條 郵便切手ニ依ル貯金ノ預入ハ一人一箇月一圓ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ其ノ制限超過額ヲ無効トシ其ノ消印シタル郵便切手ニ對シテハ之カ代償ヲ爲サス

第三節 證券預入

第五十二條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

前項ノ證券ニシテ割増金附ノモノナルトキハ其ノ割増金モ共ニ預入スルコトヲ得

郵便貯金ニ預入スル證券ニシテ所得税ヲ課セラルルモノハ其ノ所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ貯金預入額トス

第五十二條 證券ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ證券ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ但シ證券ニ支拂期ノ明記ナキモノハ預ケ人ニ於テ其ノ支拂期ノ開始セルモノナルトキハ證明スルコトヲ得

第四節 局所外預入

第五十三條 一定ノ場所及日時ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲ス者多數アルトキハ郵便局所ハ其ノ預ケ人ノ請求ニ依リ吏員ヲ派出シ之カ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第五十四條 郵便局ノ郵便區市外ニ在ル貯金預ケ人ハ當該郵便局ノ郵便集配人ニ依リ預入ヲ爲スコトヲ得但シ證券ニ依ル預入ハ此ノ限ニ在ラズ

郵便集配人ニ於テ貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局長ノ揭示スル所ニ依ル

第五十五條 郵便局所ノ派出吏員又ハ郵便集配人ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ場所及日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ通帳ニ預入金ヲ添ヘ之ヲ派出吏員又ハ郵便集配人ニ交付シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サムトスル者多數アルトキハ取纏メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ取纏人ニ於テ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ調製シ之ヲ添附スヘシ

第三類 郵便貯金規則

第五十六條 前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル貯金ニ對シテハ所轄郵便局所ニ於テ相當手續ヲ爲シタル上通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ三日以内ニ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス但シ取纏メ預入ヲ爲シタルモノナルトキハ之ヲ其ノ取纏人ニ交付ス

第五十七條 貯金預ケ人前條ノ期間内ニ通帳ノ交付ヲ受ケサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當該郵便局長又ハ所轄ニ等郵便局長ニ申出スルコトヲ得ス

第三章 貯金拂戻

第二節 通常拂戻

第五十八條 貯金拂戻證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ六十日トス

第五十九條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ五十錢以上八

貯金ヲ殘シ置クヘシ

第六十條 貯金預ケ人ハ貯金ノ一部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢未満ノ端數及未

元金ニ加ヘザル利子ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二節 通常拂戻

第六十一條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於

テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ

同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第六十二條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ依

リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受

取ルヘシ但シ請求書ニハ拂戻金額ヲ記載セス其ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記ス

ヘシ

第六十三條 前二條ノ貯金拂戻請求ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所

ニ於テ其ノ請求書ヲ預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキ

ヲ認メタル上拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵

便局所ニ送付ス

第六十四條 貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領

第三類 郵便貯金規則

證印ヲ爲シ之ニ通帳又ハ通帳受領證ヲ添ヘ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ
拂渡郵便局所ハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額、通帳記號番號、預
ケ人ノ氏名及印鑑ノ符合スルヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合
ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ拂渡郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 拂戻證書違式ノトキ
 - 二 拂戻請求書違式ノトキ
 - 三 拂戻請求書未達ノトキ
 - 四 拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサルトキ
 - 五 拂渡資金缺乏ノトキ
- 拂渡金拂渡ヲ停延スルトキハ當該郵便局所ニ於テ拂戻證書ノ裏面ニ其ノ事由
及豫定日數ヲ記載證印シ之ヲ請求人ニ返付ス
- 第六十六條 郵便局所ハ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合ニ於テハ

其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ其ノ拂渡シ得ル金
額ヲ限度トシ拂戻請求人ノ請求ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ爲ス

第六十七條 貯金拂戻請求人前條ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領
證ヲ差出シ且拂戻證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ拂戻證書
ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ拂戻證書ニ記載シタル金額ノ拂渡
ヲ受クルモノナルトキハ拂戻證書ニ受領證印スヘシ

第六十八條 郵便局所ハ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ニ於テ其ノ事故判明シ
又ハ資金充實シテ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキ若ハ停延期間ノ延長ヲ要ス
ルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第六十九條 郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ拂
戻證書ノ有効期間ニ算入セス

第七十條 貯金預ケ人拂渡郵便局所ヲ變更シ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號
番號、拂戻金額、原拂渡郵便局所名及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名等ヲ記

載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通
知ス

第七十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便官署ニ再度拂戻證書ヲ交付ヲ請
求スルコトヲ得

- 一 拂戻證書ヲ亡失シタルトキ
 - 二 拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ
 - 三 拂戻證書有効期間ヲ經過シタルトキ
- 再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ徴收ス
- 第七十二條 貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトキハ通帳記號
番號、拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名調印シ之ニ料金
相當ノ郵便切手ヲ貼附シ原證書アルモノ之ヲ添へ郵便局所ニ差出スヘシ
- 第七十三條 郵便官署ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シ拂渡ヲ

爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第七十四條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第七十五條 貯金預ケ人拂戻證書ノ交付ヲ受ケタル後現金受領ノ必要ナキニ至
リタルトキハ其ノ拂戻金ノ戻入ヲ請求スルコトヲ得但シ貯金全部拂戻ニ係ル
モノハ此ノ限ニ在ラス

拂戻金戻入ノ請求アリタルトキハ其ノ請求ノ日ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲シタル
モノヲ下看做ス

第七十六條 貯金預ケ人拂戻金ノ戻入ヲ請求セムトスルトキハ拂戻證書ノ餘白

ニ其ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上之ニ通帳ヲ添へ郵便局所ニ差出スヘシ但シ證
書ヲ亡失シタルモノ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ通帳記號番
號、拂戻金額、拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル戻入請求書ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ニ拂出及受入ノ記入ヲ爲シ
之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三類 郵便貯金規則

第三節 特殊拂戻

第七十七條 貯金預ケ人ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ檢閲濟ノ證印ヲ爲シタル貯金現在金額ニ付テハ何レノ郵便局所ニ於テモ一日三十圓以内、一箇月總額百圓迄ヲ限り即時拂ヲ請求スルコトヲ得通帳ニ預入金ヲ記入シタル郵便局所ニ對シ其ノ記入金額ニ付拂戻ヲ請求スル場合亦同シ

第七十八條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ押捺シタル印影ト通帳ニ押捺シアル印鑑ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第七十九條 貯金預ケ人貯金全部ノ即時拂ヲ請求シタル場合ニ於テ元金ニ組入レタルト否トヲ問ハス通帳ニ記入セラレサル利子アルトキハ郵便爲替貯金管

理所又ハ同支所ニ於テ之ニ對スル拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第八十條 貯金預ケ人郵便局所ニ於テ豫メ特別即時拂取扱ノ承認ヲ受クルトキハ第七十七條ノ場合ニ於テ金額ニ制限ナク當該郵便局所ニ貯金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十一條 貯金預ケ人最初預入ノ際特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ貯金預入申込書ト共ニ其ノ副本ヲ郵便局所ニ差出スヘシ
概ニ通帳ヲ所持スル者特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ郵便局所ニ通帳ヲ呈示シ且貯金預入申込書副本ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ特別即時拂取扱ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス
第八十二條 貯金預ケ人ハ別ニ告ホスル郵便局所ニ於テ其ノ受持郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ屬スル貯金ノ全部又ハ一部ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十三條 貯金預ケ人局待拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付ス
第三項 郵便貯金規則 三百五十五

以用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於ケル預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ相違ナキヲ認メタル上之カ拂渡チ爲ス

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ郵便爲替貯金管理所ニ其ノ請求書ノ到着シタル日ヨリ起算シ第三日ヨリニ於ケル東京ノ相場ニ依ル

第八十六條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利子、償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル

貯金ニ組入レタル證券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閲ヲ受ケル爲通帳ヲ提出シタルトキ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第八十八條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ屬スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ

第八十九條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得

前項ニ依ル保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト看做シ之ヲ取扱フ

第九十條 本章ノ規定ハ第五條第二項ニ依ル國債證券ノ購入保管ニ關シ之ヲ準用ス

第三類 郵便貯金規則

第二節 證券購入及保管

第九十一條 貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券購入請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十二條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ受取り再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出シ之ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ノ記入ヲ受ケヘシ

第九十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十四條 貯金預ケ人第八十九條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セムトスルトキハ

郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ證券ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ貯金通帳ヲ呈示シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ請求人ニ證券假受領證ヲ交付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第九十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ證券ヲ受取りタルトキハ證券保管原簿ニ登記シ初度ノ請求ニ係ルモノハ證券保管通帳ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノハ原簿登記簿ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ノ償還金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

第三類 郵便貯金規則

貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵

便局所ニ差出シ之ニ證券拂出及償還金受入ノ記入ヲ受ケヘシ

第三節 證券交付及賣却

第九十七條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケ且交付請求書ニ受領證印シテ證券ヲ受取ルヘシ

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ
貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ證券賣却代金ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルト

キハ賣却請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第一百條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ證券ノ賣却代金ヲ請求人ノ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受ケヘシ
第一百一條 前條ノ場合ニ於テ第九十九條第二項ニ依リ證券賣却代金ノ拂渡ヲ要スルモノナルトキハ第七十八條ノ手續ニ準シ之ヲ拂渡ヲ爲ス

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第一百二條 組合規約ニ依リ拂戻ニ制限ヲ付シテ預入シタル貯金ハ之ヲ規約貯金

第一百三條 規約貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ組合代表者ニ於テ組合ノ名稱、所在地並ニ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ記載シタル請求書

第三類 郵便貯金規則

二通ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ代表者ニ通知ス

第四百四條 組合員新ニ規約貯金ノ預入ヲ爲ス場合ニ於テハ貯金預入申込書ニ組合ノ名稱及規約貯金ノ旨ヲ附記シ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第四百五條 規約貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ拂戻制限ノ旨ヲ附記ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ規約貯金ト看做ス

第四百六條 通常貯金通帳ハ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ通帳ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ之ニ拂戻制限ニ關スル徴號ノ附記ヲ受ケヘシ

第四百七條 組合員他ノ規約組合ニ轉シタルトキハ舊組合ニ於テ使用セシ通帳ヲ新組合ニ於テ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ新組合ニ對シ取扱ヲ

承認シタル郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受ケヘシ

第四百八條 規約貯金預ケ人ハ其ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ヲ除ク外他ノ郵便局所ニ於テ貯金ノ特殊拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス但シ局待拂ハ此ノ限ニ在ラス

第四百九條 規約貯金ノ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ拂戻承認ニ關スル證明ヲ具シ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ證明カ豫メ組合代表者ヨリ提出ニ係ル證明方法ニ符合スルニ非ラザレハ之ヲ拂戻ヲ爲サス

第五百十條 組合ニ於テ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ變更シタルトキハ組合代表者ニ於テ其ノ届書ニ通テ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第五百十一條 組合ニ於テ拂戻制限ニ關スル規約ヲ解除シ若ハ組合ヲ解散スルトキハ代表者ニ於テ直ニ其ノ旨ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ届出

第三類 郵便貯金規則